

平成29年度新潟県大学生の力を活かした集落活性化事業

阿賀町室谷地区

「室谷ふるさとキャンプ」の試行実践

— 青年会・高校生・都市部大学生の協働による新たなムラづくりへの挑戦 —



2018年3月22日

東京農業大学宮林研究室・大正大学出川研究室

プレゼンター: 高橋咲紀・本多 龍

1. 集落の概要

- 人口:115人、世帯数:29世帯、高齢化率:35.6%
- 集落の紹介:御神楽岳入口に位置する室谷地区。周りを山々に囲まれ、町内でもトップクラスの豪雪地帯で、集落内の紫光山洞雲寺は、この地の教育の源であったと伝えられています。
- 室谷区に暮らす住民の絆は強く、季節ごとの行事など、区全体で協力しあいながら集落の発展と活性化に努力しています。



2. 集落の課題

- 過疎化高齢化によって集落活動が減退している状況にある。そのため、山村地域ならではの自然・文化的資源を十分に管理・活用することができておらず、特に次世代の人材育成・継承といった点で大きな懸念材料を抱えている。
- 一方で若手構成員を中心にした青年会活動が今も存続しており、近年新たな地区行事を企画・実施するなど集落活性化に向けた努力を続けている。



3. 活性化に向けた集落からの要望

- 外との交流により、青年会活動の活性化を基軸にしなが、地区全体の活性化を図りたい。
- 地域の日常の暮らしの中にある魅力(ひと・もの・こと)を基盤としなが、外部の若者や青年会など地域の若者が中心となった集落活動を促進させたい。

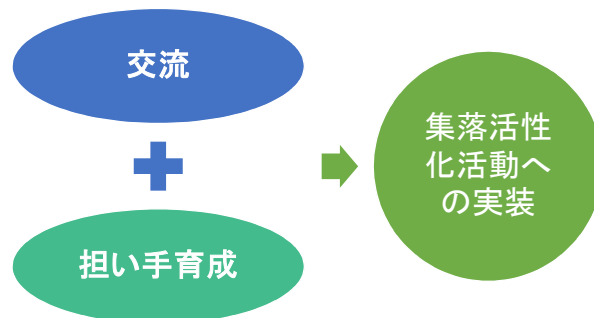


4. 研究の目的

青年会などの若手世代層が基軸に、集落の地域資源の有効活用を図りながら、

- ①交流活動(交流産業)
- ②担い手育成活動

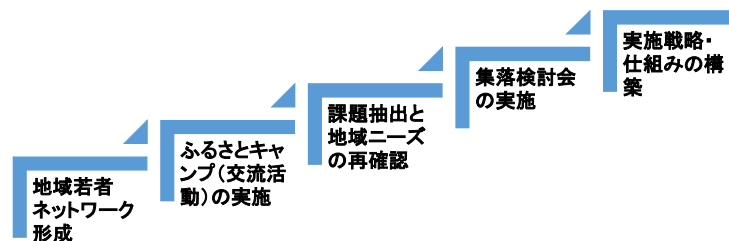
の2活動を相乗的に促進する方策やしくみについて提案し、活性化の取組として集落へ実装する。



5. 研究内容1

概要とプロセス

- 青年会・高校生・大学生協働による地域学習・実践プログラム「室谷ふるさとづくりキャンプ」(若者交流活動)試行を実施。人材育成と学習交流産業の双方が推進される方策を考案。
- 中間報告での指摘事項を踏まえて、地元住民ニーズの確認・検討を再度実施。地域ニーズとして①外部交流、②地域若者担い手育成(直接的には青年会活動の担い手形成)の2点に絞り込み、当地域の自然・文化・人的資源を活用しながら相乗的に実施効果を高めていく戦略について具体的検討を行った。



5. 研究内容2

取組1 高校・青年会・大学生による「ふるさとキャンプ活動」の実施

- 室谷青年会、地元高校生、大学生の協同による地域資源学習・実践プログラム「室谷ふるさとづくりキャンプ」を試行実施。
- 地域資源を用いて地域内外の若者が取り組むことができる食産品・体験プログラム等について検討。
- 都市部(豊島区生涯学習施設)でのPR活動と情報交換



5. 研究内容3

取組2 「交流」・「担い手育成」を相乗的に実現するための地域資源の再調査と活用検討

- 室谷青年会、地域集落の高齢者の皆さんへのヒアリングと意見交換。
- 源流資源(川・山・食・各種風習・伝統)に地域の若者がアクセスし、「交流」と「担い手育成」が相乗的実現を図るための教育カリキュラム、組織制度、プログラム構築を行った



6. 成果

本研究により集落活性化のための方策・仕組み構築につながる以下の成果を得ることができた。

①交流プログラム

- ・里山プログラム
- ・溪流プログラム
- ・食プログラム
- ・伝統・文化・行事プログラム
- ・室谷体験おたのしみ企画

②担い手育成プログラム

- ・青年会に地域外部の若者ファン層の参画を促進する「準会員」導入等の制度改正実現
- ・地元高校における「地域学」カリキュラムとの連動の仕組みづくりの進展



2018年度より
これら要素を組み込んだ青年会・集落活動の計画立案が実現

7. 今後の展望

- ・当研究によって開発した交流プログラムと担い手育成プログラムの継続的实施を行うことで、

青年会—集落—地域教育機関(高校)—大学

の継続的かつ効果的連携活動を若者の「地域回帰」の主流化をすすめ、集落活性化を実現する。

